

学習指導要領

東京都教育施策大綱、
八王子未来デザイン2040（R4.12）
第3次八王子市教育振興基本計画
ビジョンはちおうじの教育（R2.3）

学校の教育目標

- 学んで伸びる子（知）
- ◎ 強く優しい子（徳）
- 健康に過ごす子（体）

- ・ 学ぶ楽しさを知り、主体的に学ぶ子ども
- ・ 感受性豊かで、自他を認める子ども
- ・ 心身共に健康で、はつらつとした子ども

小中一貫教育 みなみ野中学校グループ共通目標

～みなみ野君田小学校、みなみ野小中学校共通目標～

- ① グローバル化がすすむ社会で、自信をもって活躍することをめざす生徒
- ② 時・場所・場面に応じた言動ができる生徒
- ③ 自他共に、心身の健康を大切にできる生徒

目指す学校像

すべての子どもが互いの個性を認め合い、共に学ぶ楽しさや喜びを感じ、主体的に自己実現を図れる学校

小・中一貫教育を推進し、
未来を担う子どもを地域で育てる

子どもに「できた！」「わかった！」また
「誰かの役に立っている」という実感をもたせ、
自己肯定感及び自己有用感を育む

子どもをまんなかに置き
「すべては子どもたちのために」を合言葉に、
教職員、保護者、地域が協働して子どもを育む

教師が子どもと向き合い
遣り甲斐をもって働く

小中一貫教育の推進（みなみ野中学校グループ）

- ◇みなみ野小中学校と連携した、自主的に学び自立した子どもの育成
- ◇小中系統だった生活指導
 - ・小中引き継ぎの会
 - ・みなみ野中学校グループあいさつ運動
- ◇中一ギャップの軽減
 - ・小学校で確実に定着させたい基礎的・基本的な学習内容の定着（9年間の義務教育で）
 - ・小中共通したICT機器の活用スキルの推進
- ◇小小交流、小中交流の取組の充実
 - ・八王子桑都かるた大会（中3、みなみ野小1年、みなみ野君田小2年）
 - ・生徒会・部活動紹介（中2、小6）
- ☆七国小学校、七国中学校との連携も大切にする

健やかな身体の育成

- ◇体力向上・体づくり
 - ・柔軟（1学期）、持久走（2学期）、短縄（3学期）
 - ・長縄大会（2・3学期）
- ◇オリンピック・パラリンピックレガシー
 - ・トップアスリートや専門家による授業
- ◇食育
 - ・栄養士による食育授業
 - ・君田畑プロジェクト

確かな学力の育成

- ◇基礎的基本的な知識・技能の定着
 - ・授業スタンダード
 - ・ICT活用
 - ・学習習慣
 - ・朝学習（年間60回）はちおうじっ子ミニマム
- ◇思考力・判断力・表現力の育成
 - ・個別最適な学びの実現に向けた授業改善（ユニバーサルデザイン）
 - ・校内研究（算数科、特別支援教育）
 - ・協働的な学びの実現に向けた授業
 - ・タブレットの活用
 - ・プログラミング学習
- ◇補充的な学習（習得目標達成）
 - ・放課後補習「のびのびタイム」（教員）
 - ・放課後補習教室「パワーアップタイム」（学校運営協議会・地域人財）
 - ・放課後子ども教室「きみだランド」

地域人財・地域資源を活用した教育活動の充実

- ◇地域人財の積極的な活用
- ◇放課後子ども教室、早朝きみだランドの実施
- ◇学校運営協議会による活動
 - ・漢字検定
 - ・体験型サマースクール
 - ・君田畑プロジェクト
 - ・保護者、地域向けサロン
- ◇郷土学習（3年生以上）

豊かな心、人間性の育成

- ◇心と心をつなぐ「あいさつ」
- ◇異学年交流活動や、学校行事で子どもが自ら創意工夫して運営する取組の充実
- ◇読書活動の推進 図書館・読書ボランティア
- ◇道徳教育の充実 特別な教科「道徳」の充実
 - ・「八王子市いのちの大切さを共に考える日」の校長講話
- ◇いじめゼロの取組
 - ・ふれあい月間アンケート
 - ・QUTテスト
 - ・子ども見守りシート
 - ・いじめ対応の時間（早期発見、早期対応）
- ◇不登校や学校不適応等への対応と解消
 - ・安心できる居場所づくり（ぼかぼかルーム設置、休み時間の校長室開放）
- ◇地域と連携した体験活動の充実
- ◇保護者とつながる学校
 - ・保護者面談（1・2学期）
 - ・ホームページ

学校組織の機能強化

- ◇ライフ・ワーク・バランスの理念に基づいた校務改善の推進
- ◇一部教科担任制（交換授業）の実施（全学年）

目指す教職員像

- 教育に対する熱意と使命感をもつ教師
- 全体の奉仕者としての自覚をもち、人間性豊かな教師
- 組織人として責任感と協調性を有し、互いに認め合う教師

令和6年度 八王子市立みなみ野君田小学校 学校経営計画

I 学校経営の基本理念

令和6年度の八王子市立みなみ野君田小学校の教育は、法令、学習指導要領に基づき、八王子市教育委員会の教育目標や基本方針に則って教育課程を編成し、信頼される学校経営を組織的に推進する。

<設置者である八王子市教育委員会の重点項目>

- ① 義務教育9年間を見通した「小中一貫教育」のさらなる充実
 - 地域に生きる子どもたちの9年間の発達・成長を見通し、切れ目なくつなぐ教育活動の計画・実施
- ② 誰一人取り残さず見守り、育成するための子ども一人ひとりに応じた指導
 - 不登校児童・生徒への適切な対応
 - いじめの防止及び早期発見、解消に向けた取組
 - 一人ひとりの教育ニーズに的確に応える特別支援教育の充実
 - 生命（いのち）の安全教育
- ③ 学習内容のさらなる充実と確実な定着に向けた指導
 - 資質・能力の育成
 - 義務教育修了段階における学力の保障
 - ICTの活用による学びの質の向上

<小中一貫教育 みなみ野中学校グループ共通目標～みなみ野小中学校、みなみ野君田小学校～>

- ① グローバル化がすすむ社会で、自信をもって活躍することをめざす生徒
- ② 時・場所・場面に応じた言動ができる生徒
- ③ 自他共に、心身の健康を大切にできる生徒

<学校教育目標>

社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な未来の創り手となる人間を育成する。

未来社会を切り拓く人間の育成

- | | | | |
|-----------|-----|---|----------------------|
| ○ 学んで伸びる子 | (知) | — | ・ 学ぶ楽しさを知り、主体的に学ぶ子ども |
| ◎ 強く優しい子 | (徳) | — | ・ 感受性豊かで、自他を認める子ども |
| ○ 健康に過ごす子 | (体) | — | ・ 心身共に健康で、はつらつとした子ども |

2 教育目標の達成に向けて

(1) 目指す学校像

学校教育目標を達成するため、家庭・地域との連携を図りながら、学校内外の教育力を効果的に活用し、より質の高い教育活動が組織的に展開される学校を目指す。

すべての子どもが互いの個性を認め合い、共に学ぶ楽しさや喜びを感じ、主体的に自己実現を図れる学校

- 小中一貫教育を推進し、未来を担う子どもを地域で育てる学校
- 子どもに「できた!」「わかった!」また「誰かの役に立っている」という実感をもたせ、自己肯定感及び自己有用感を育む学校
- 子どもをまんやかに置き「すべては子どもたちのために」を合言葉に、教職員、保護者、地域が協働して子どもを育む学校
- 教師が子どもと向き合い、遣り甲斐をもって働く学校

(2) 目指す子ども像

学校教育目標に掲げる「知」「徳」「体」の調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成を目指す。

- 学ぶ楽しさを知り、主体的に学ぶ子ども
- 感受性豊かで自他を認め合える子ども
- 心身共に健康で、はつらつとした子ども

(3) 目指す教師像

- 教育に対する熱意と使命感をもつ教師
- 全体の奉仕者としての自覚をもち、人間性豊かな教師
- 組織人として責任感と協調性を有し、互いに認め合う教師

3 中期的な目標と方策

(1) 小中一貫教育の推進（みなみ野中学校グループ）

- 教職員は、子どもの義務教育9年間の学びに自覚と責任をもって教育活動を進める。

【方策】・自主的に学び、自立した子どもを育てるため、みなみ野小中学校とより一層連携を図る。特に家庭環境の把握・生活指導及び学習指導の共通実践、規範意識の高揚や不登校対応等、中学校との円滑な接続を図る。

- 小学校と中学校のカリキュラムをつなぐ。

【方策】・中一ギャップの軽減を重視し、小学校で確実に定着させたい基礎的・基本的な学習内容を3校で共有し、協働して実践し定着を図る。実践・定着状況については、履修学年を遡って確認する。

・中学校進学にあたり人間関係を円滑に構築できるよう、小小交流、小中交流の取組の充実を図る。

※七国小学校、七国中学校との連携も大切にする

(2) 確かな学力の育成

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。

【方策】・算数科の校内研究を通して身に付けさせた主体的な学びをさらに推進し、思考力・判断力・表現力等の一層の向上を図る。

・校内研究に、特別支援教育及び個別最適な学びの充実を位置づけ、ユニバーサルデザインの理念に基づき、誰一人取り残さない個に応じた指導の充実を図る。

- 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を実践する。

【方策】・校内研究やOJTを通して授業改善を図り、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる授業を実践する。

- ・一人1台の学習用端末の授業支援ツールを活用し、互いの考えを交流させることにより主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

- 体験的・協働的な活動を意図的に設定し、思考力・判断力・表現力を育成する。

【方策】・身近な郷土学習において、発達段階に合わせた課題を設定し、主体的・協働的に解決する探求的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。

- ・算数科・理科を中心にプログラミングのアプリケーションやツールを活用した学習を展開し論理的思考力を育成する。

(3) 豊かな心の育成

- 自己肯定感及び自己有用感を育むとともに、自主的・自律的態度を養う。

【方策】・問題行動調査やふれあい月間の取り組みを通して、認知されたいじめについて確実な解消まで継続して対応し、解消率の向上を目指す。また、いじめ対応の時間を活用し、子どもの心身の健全な育成及び自己肯定感を培う。

- ・不登校や登校しぶり傾向の子どもについては、校内委員会を含め、地域の関係機関とも連携しながら、学校や社会とのつながりをもてるよう支援していく。
- ・道徳科の授業を始めとする教科指導や生活指導、特別活動、学校行事などを通して自他の良さに気付かせ、自己肯定感を高める。
- ・完全ノーチャイムを継続し、自主的・自律的に生活する態度を育成する。

(4) 健やかな体の育成

- 体力向上を図るとともに健康についての関心を高める。

【方策】・すべての子どもが運動の楽しさを味わえる授業を実践する。

- ・保護者・地域と協働した食育を実践し、食の重要性について理解させ、健康な生活を送ろうとする態度を育成する。

(5) 地域人財・地域資源を活用した教育活動の充実

- 地域人財や地域資源を活用した教育活動を展開し、地域の一員としての自覚を育てる。

【方策】・学校運営協議会と協働して、君田畑プロジェクト、体験型サマースクール、漢字検定を実施し、問題解決能力を育成する。

- ・学校運営協議会と協働して、朝の子どもの居場所づくりを行い、子どもの健全育成を推進する。
- ・身近な地域資源を活用した郷土学習を3年生以上に年間20時間設定し、主体的・協働的な活動を通して、地域への愛着を深める。

(6) 学校組織の機能強化

- ライフ・ワーク・バランスの理念に基づいた校務改善の推進

【方策】・業務内容の再編及び人員構成の見直しを行い、分掌組織の適正化を図る。

- ・組織的な人材育成を行う。

- 校内支援体制の確立

【方策】・週1回、いじめ対応の時間を設定し、スクールカウンセラー、特別支援教室及び関係諸機関との連携を図り、早期のいじめ防止対策、不登校対策等校内支援体制の確立を図る。

- ・毎月、校内委員会を開催し、校内の特別支援に係る諸問題について関係諸機関と連携を図り対応していき、支援体制の確立を図る。

4 教育活動の重点目標と方策

(1) 小中一貫教育の推進（みなみ野中学校グループ）

- 教職員は、子どもの義務教育9年間の学びに責任をもち、学習や友達との関わりの段差が緩やかになるよう、接続する小・中学校と連携を図り、教育活動を進める。
 - ・ 自主的に学び、自立した子どもを育てるため、みなみ野小中学校とより一層連携する。
※七国小学校、七国中学校との連携も大切にする
 - ・ 小中引き継ぎの会やみなみ野中学校グループ小中3校で取り組むあいさつ運動等を実施し、小中系統だった生活指導を進める
 - ・ 中一ギャップの軽減を重視し、小学校で確実に定着させたい基礎的・基本的な学習内容を3校で共有し、協働して実践し定着を図る。実践・定着状況については、履修学年を遡って確認する。
 - ・ 小中3校で共通した ICT 機器を活用した授業スキルの充実を図る。（小中一貫教育の日の充実）
 - ・ 中学校進学にあたり人間関係を円滑に構築できるよう、小小交流、小中交流の取組の充実を図る。

(2) 確かな学力の育成

- 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着及び思考力、判断力、表現力を育成する。
 - ・ 八王子市学力定着度調査及びはちおうじっ子ミニマムの結果をもとに、基礎的・基本的な問題の確実な定着に向け、授業や宿題、放課後補習等で学習用端末のドリル型学習コンテンツ「ミライシード ドリルパーク」を、一人一人の実態に応じて活用し、学習内容の定着を図る。
 - ・ 東京ベーシック・ドリルの分析結果を活用した放課後補習の充実を図る。（「のびのびタイム」、放課後補習教室「パワーアップタイム」（学校運営協議会・地域人財））
 - ・ 算数科の校内研究「すすんで思考・表現する児童の育成～自分で学び方を考え、かかわり合いを通じ主体的に学ぶ授業の工夫～」において、すべての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びの充実と協働的な学びの実現を目指した授業展開を工夫する。
 - ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着の更なる向上を目指し、八王子市学力定着度調査及び東京ベーシック・ドリルの結果の分析及び活用を研究推進部に位置付け、学習指導を計画的に進める。
 - ・ 1人1台の学習用端末の授業支援ツールを活用し、互いの考えを共有し、協働することにより、主体的・対話的で深い学びを実現する。
 - ・ ICTの活用及びICTに関するOJTの推進担当を分掌に位置付け、ICT機器を活用した授業力の向上を図る。
 - ・ 算数科・理科を中心にプログラミングのアプリケーションやツールを活用した学習を展開し、論理的思考力を育成する。
 - ・ 外国語科及び外国語活動による言語活動を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の素地を育成する。
 - ・ 年間60回、朝学習の時間を設定し、算数科、国語科の指導を行うことにより、基礎学力の確実な定着を図る。また、読書の時間では想像力を培う。

(3) 豊かな心の育成

- 自己肯定感及び自己有用感を育むとともに、豊かな人間性及び心を育む。
 - ・ 挨拶は心と心を繋ぐものとし、基本的な生活習慣の重点として「あいさつ」に取り組む。教師が率先して範を示し、校内外を問わず「あいさつ」のできる子どもを育てる。
 - ・ 縦割り遊びや学校行事等、子どもが創意工夫して運営する取組の充実を図り、主体的に取り組む態度を育成する。
 - ・ 保護者・地域の読み聞かせボランティア「おはなしスタジオ」の充実を図り、情操教育を推進し、子どもの豊かな心を育む。
 - ・ 授業や学校生活での子どものよさを認め、できたことを教師が意図的に評価することを全校で徹底し、成功体験を積ませることで子どもの自己肯定感及び自己有用感を育む。
 - ・ 6年生でQ Uテストを実施し、子どもの実態を把握し自己肯定感及び自己有用感を高める活動・指導を行う。
 - ・ 各教科・領域で体験活動を取り入れ、子どもが自己を理解し成就感や自尊感情を獲得するとともに、豊かな人間性や価値観を形成できるようにする。
 - ・ 集団宿泊的行事と総合的な学習の時間を横断的に計画し、自然や文化に親しむとともによりよい人間関係を形成できるようにする。
 - ・ 「生命の尊さ」を重点内容項目と定め、「八王子市いのちの大切さを共に考える日」の校長講話、特別の教科 道徳の授業を通して、自他の生命を尊重する態度を育成する。
 - ・ ふれあい月間アンケート、Q Uテスト、子ども見守りシート等を活用するとともに、いじめ対策委員会を中心に組織的に対応することにより、いじめの早期発見・早期対応及び全ての子どもが相談できる大人をもつことができるようにする。
 - ・ いじめ対応の時間を活用し、子どもの心身の健全な育成及び自己肯定感を培う。
 - ・ 不登校や学校不適応等の対応と解消に向けて、適応支援ルームや校長室の休み時間開放等、校内で子どもが安心できる居場所づくりを推進する。
 - ・ 保護者と連携して子どもの心を育むため、保護者との繋がりを重視し、個人面談を年2回実施する等、家庭との連携の強化を図る。

(4) 健やかな体の育成

- 体力向上を図るとともに健康についての関心を高める。
 - ・ 毎学期、全校で体力向上及び体づくり運動に取り組む。1学期は、前年度の全国体力テストの分析結果から体育の授業や家庭と連携して体づくりの柔軟に取り組ませ、柔軟性の向上を図るとともに体を動かす心地よさを味わわせる。また、休み時間に全校児童が取り組む持久走週間（2学期）及び短縄週間（3学期）を実施し、体力向上を図るとともに、運動する楽しさを味わわせる。
 - ・ 2学期、3学期に長縄大会を実施し、目標に向かってみんなで頑張る力を養う。
 - ・ オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、トップアスリートやスポーツの専門家を招き、子どものスポーツ志向を高める。
 - ・ 1年生、2年生、3年生では、栄養士をゲストティーチャーとして、給食の食材を活用した体験活動や食育の授業を実施する。

(5) 地域人財・地域資源を活用した教育活動の充実

- 地域人財、地域資源を活用した教育活動の充実を図り、保護者、地域と協働した学びを通して、他者と協働する喜びや他者を思いやる心や感動する心を育てる。学校、保護者、地域が三位一体となって子どものために協働できる繋がりを学校が核となって構築していく。
- ・ 「社会の力活用事業」「地域の企業や大学」「学習支援ボランティア」等において、地域人財を積極的に活用する。
- ・ 「漢字検定」、「体験型サマースクール」、「君田畑プロジェクト」等学校運営協議会が主体的に取り組む教育活動の一層の充実を図る。
- ・ 学校運営協議会を中心に地域人財を活用した放課後補習教室「パワーアップタイム」を週2回実施する。
- ・ 学校運営協議会を中心に地域人財を活用した保護者・地域の方々向けのサロンを月に1回開催し、学校教育や子育ての理解を深めるとともに、子どもたちを育むネットワークの構築を図る。
- ・ 毎日、朝の校庭開放「早朝きみだランド」を実施する等、放課後子ども教室事業の更なる充実を図る。
- ・ 「君田畑プロジェクト」等、保護者・地域と協働した食育を実践し、食の重要性について理解させ、健康な生活を送ろうとする態度を育成する。
- ・ 3年生以上の学年で、子どもが主体的・協働的に取り組む郷土学習を計画、実施する。

(6) 学校組織の機能強化

- ライフ・ワーク・バランスの理念に基づいた校務改善の推進を図る。
- ・ 教務部と経営支援部の連携を強化し、更なる校務の円滑な運営を図る。
- ・ 校務システムを活用した業務連絡の徹底や、ICT 機器のアンケート機能の活用による作業の効率化を図り、教員が児童に向き合う時間を生み出す。
- ・ 教育の質の向上及び学年担任としての自覚をもつこと、教科の専門性の強化及び授業準備の時間の軽減を目的とし、学年間での一部教科担任制（交換授業）を全学年で実施する（通年）。
- ・ 3つの OJT（学年 OJT、校務分掌 OJT、若手研修）を活用し、組織的な人材育成を図る。
- 校内支援体制を確立する。
- ・ 週1回、いじめ対応の時間を設定し、スクールカウンセラー、特別支援教室及び関係諸機関との連携を図り、早期のいじめ防止対策、不登校対策等校内支援体制の確立を図る。
- ・ 毎月、校内委員会を開催し、校内の特別支援に係る諸問題について関係諸機関と連携を図り対応していき、支援体制の確立を図る。
- ・ 子ども一人一人を大切にする教育の充実に向けて、特別支援委員会を分掌に位置づけ、組織的な特別支援教育の充実を図る。